

病院に行くと どういうこと？

自覚症状がなくても 受診が必要ですか？

免疫力が低下しても、必ずしも自覚症状が出るとは限りません。HIVが陽性と分かったら、まず今の免疫の状態を知るために、症状の有無にかかわらず、なるべく早く病院で受診することをお勧めします。

病院では、定期的に免疫力やHIVの状態を検査し、日和見感染症（P7注参照）や悪性リンパ腫などの合併症のチェックをします。HIVへの治療も、合併症への治療も急速に進歩しています。

また、継続的に通院することを考えて、自分にとって通いやすい病院を選ぶとよいでしょう。HIV陽性者の支援団体や当事者団体などに病院の選び方や付き合い方についての情報を聞くことも方法のひとつ

です。

[受診の目的]

自分の状態を知る

血液中のCD4陽性リンパ球の数やウイルス量の検査をすることで、現在の免疫の状態を確認できます。適切な時期に治療を開始するためには、症状がなくても、定期的な検査によって免疫の状態を確認していくことがとても大切です。治療開始のタイミングを逃さないために、定期的に通院し、健康状態について相談できる主治医を持ちましょう。

日和見感染症の治療と予防

何らかの日和見感染症や悪性リンパ腫などを起こしている場合はその治療を行います。また、症状がなくても、CD4陽性リンパ球の数が少ない場合は日和見感



感染症の予防薬を飲むなどします。

HIVの治療をする

血液中のCD4陽性リンパ球の数やウイルス量の状況などによってHIVの増殖を抑える薬を飲み、免疫力を維持又は回復する治療（抗HIV薬による治療）を行います。

治療はすぐ始めるのですか？

すべての人がすぐに服薬が必要な訳ではありません。病気の進行の程度によって、治療をいつ開始するのかが決めることになります。定期的に受診して、検査結果も含め現在の自分の状況を確認しながら、医師と相談していきましょう。

治療の効果を高めるためには、あなた自身が自分の治療について考え、治療内容について自分の意見や質問を医師に伝えながら主体的に参加することがとても大切です。服薬は毎日のことです。治療の開始に当たって最も大切なことは、あなた自身の心と生活の準備ができていくことです。

最初に病院に行く場合は、支払いはどのくらいになるのですか？

一般的に初診の時に支払う金額は、健康保険を使うと3割の自己負担となり、4,000円から12,000円くらいです（健康保険を使わない場合は、10割負担で

12,000円から40,000円になります。）。これは病気の状態を調べるために、主に血液検査を実施した場合です。病気の状態によって検査内容は変わります。また病状によっては、薬が出される場合もありますので、それに応じて支払いの額が変わります。

服薬を開始した場合

服薬を開始すると、健康保険を使った3割負担の場合、医療費は1か月に60,000円前後の自己負担が必要となります。しかし、CD4陽性リンパ球の値などが免疫機能障害の認定基準を満たすと、身体障害の認定を受けることができ、医療費助成の制度を利用できます。（P27「医療費の自己負担軽減のための制度」参照）

婦人科の病気で 気を付けることはありますか？

HIV陽性の場合、子宮頸がんがおこる可能性が少し高くなるといわれています。年に1～2回は定期的に婦人科の健診を受けるようにしましょう。あなたが安心して相談できる婦人科の主治医を持つことは大切なことです。

私の場合、定期健康診断の血液検査の数値が通常より少し高めに出たので、再検査をしたことがきっかけになった。先生に尋ねると、この数値は慢性肝炎にかかると高いとの説明。私の数値はそれほど高くないし、心配いらなと言われてたが、再検査をお願いした。結果は異常なし。結果をもらい、腑に落ちない私に、先生がふっと一言、「HIV陽性の時も高くなるね。」すぐ近くに保健所があったので、検査をしてもらった。『陽性の疑いがあります』と言われた時、一瞬時間が止まったように感じた。天井にはむき出しの銀色の蛍光灯が光っていて、ずいぶん長い間それを眺めていた。保健所でも病院は紹介されたが電話をかけるとそっけなかった。不安になってネットで情報を収集し、信用できそうな病院に連絡を取った。

今もその病院に通院している。

はな (20代/女性/OL/陽性告知を受けてから1年10ヶ月)

一般病院に入院し、手術前の検査でHIV感染を知り、その後は病気だけでなく、これからの人生について絶望の毎日でした。

その後、受診した拠点病院では、外来看護師、医師が病気以外のことを含めしっかりと話を聞いてくださり、親切に対応してくれました。病気のことだけでなく、今後の生活や仕事、人間関係なども含めて。とても大きかったのが、実績に裏打ちされたスタッフの皆さんの言葉や態度。ひとりひとりの細かい事情は違っても、HIVに感染したことで抱える不安や問題は多くの共通点があるはずです。多くの患者さんに接することで経験を積み重ねた医療スタッフのツボを押さえた対応・アドバイスは感染間もない僕が抱える不安を的確に打ち消してくれました。

僕は感染を知らせた親と一緒に受診しましたが、感染のショックでおかしくなっていた親の心配も専門家の経験と威厳で一気に沈静化しました。感染がわかって間もない頃のわけわかんない状態に、その道のプロの威力は絶大ですよ。

はる (男性/30代/会社員/陽性とわかってから3ヶ月)



私は感染発覚から数か月のうちに、NPOを通じて知り合った仲間が数人います。特に同時期に感染発覚した仲間とは5年以上の交流があります。

発覚から通院・周囲への告知・投薬開始までのステップをお互いに前後しながら進んでいったこともあり、時に精神的な支えとなり、時に自分が励ましたりして乗り越えていけたことは非常に有難かったと思います。その仲間なしで今の自分は、なかったかもしれません。投薬生活はむしろ、その先の方が長いので今後も仲間との交流を大切にしていきたいと思っています。

マハル (30代 / 男性 / 会社員 / 陽性歴 : 5年1ヶ月)

